

7. 水海道小地域

(1) 地域の将来像のイメージ

水海道小地域の将来像である「集客力のある交流と機能的な居住環境を有する市街地ゾーン」として、次のような地域の姿を目指します。

本計画が目指す地域の姿

- 都市再生整備計画で整備された施設の連携が図られるとともに、市民活動の場となる新たな賑わい拠点が形成され、市民が行き交う市街地が形成されます。
- 土地利用更新に必要な基盤施設の整備が図られ、新たな居住者の定着が進みます。
- 水海道南地区では、検討が進められている商業施設や、居住機能等の整備が進み、既存のポリテクセンターと一体となった複合的な市街地が形成されます。
- 水海道駅の交通結節機能の充実により、通勤・通学や観光客の利用が進みます。
- 地域の自然に親しむ場として、鬼怒川の河川空間の活用が図られます。

(2) 地域づくりの目標を具体化するための施策

①市街地基盤の充実と居住環境の向上

- これまで集積した公共施設や都市機能の活用を基本的な視点としながら、都市再生整備計画に基づく基盤整備を進め、バリアフリー化の推進と回遊性の高い市街地環境を創出します。
- 都市的未利用地や低利用地については、市街地居住に向けた宅地供給を促進するため、当該箇所における細街路等の整備を検討します。
- 土地区画整理事業が施行された区域では、市街地居住の場として宅地利用を促進します。

②水海道南地区の具体化

- 水海道南地区においては、複合的な市街地形成を図るため、地区の土地利用や施設計画の策定を行うとともに、地区計画の決定や市街化区域編入に向け、事業者の具体化や農林調整を進めます。

③市街地内での新たな賑わい機能の充実

- 中心市街地の集客力を高めるため、市民の交流や憩いの場となる新たな賑わい拠点の形成を図ります。
- 市街地環境や賑わい拠点の形成にあたっては、商業活動や文化・芸術活動等のソフト事業の実施を考慮した整備を進めます。

④地域資源の活用による魅力向上

- 鬼怒川沿岸については、治水対策とともに散策空間等としての河川沿岸空間活用を進めるため、自転車・歩行者の利便性確保や景観保全のための施策を進めます。

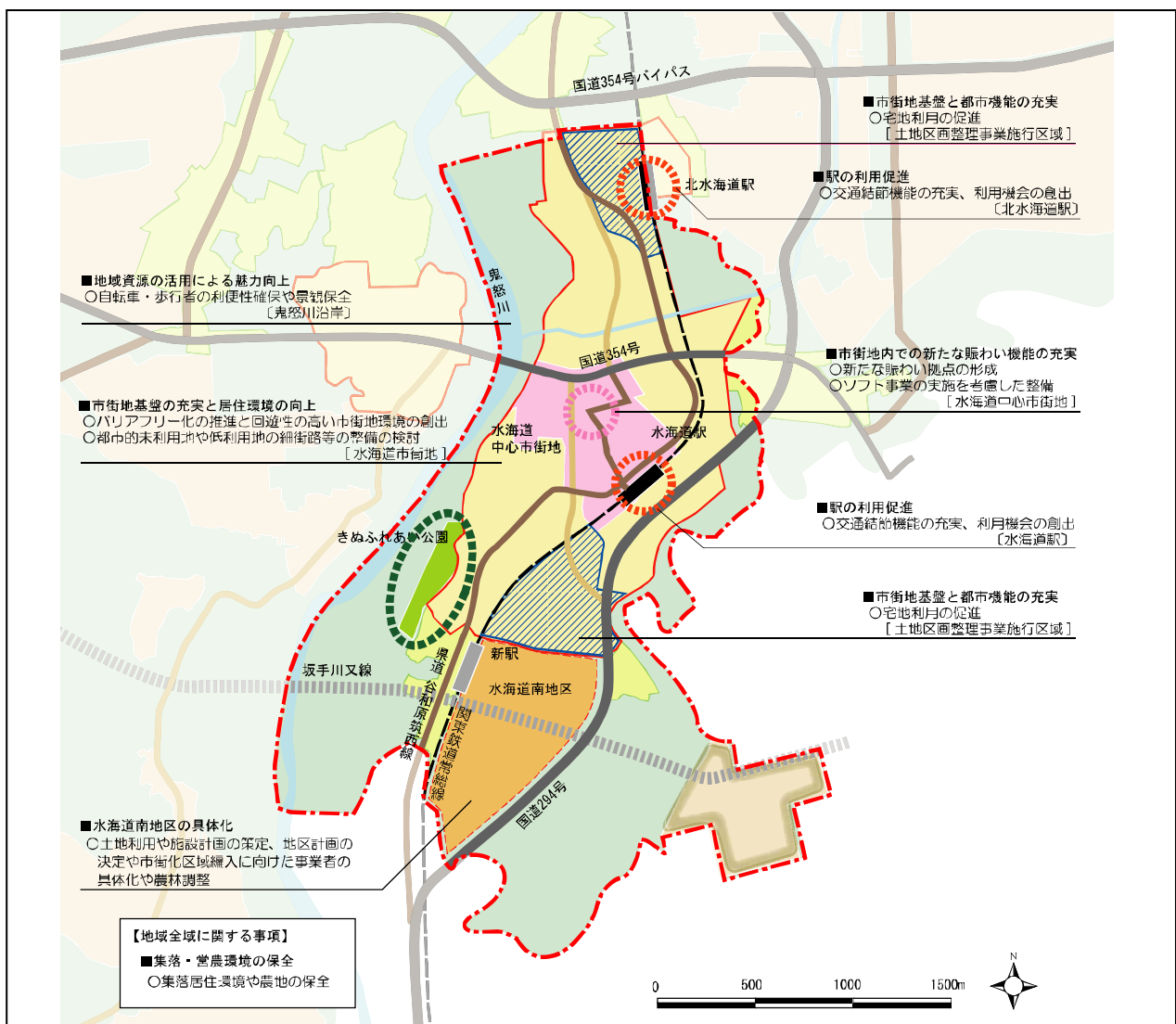
⑤集落・営農環境の保全

- 集落や農地については、これらを一体的な営農空間として捉え、農業施策との調整を図りながら、集落居住環境や農地の保全に必要な施策を展開します。

(3) 地域づくりを実現するための取り組み

- 水海道市街地の整備においては、都市施策だけでなく商業分野の施策も必要となることから、関係部署との協議や市民のニーズの把握を行うとともに、利害関係者との間で意見交換を行います。
- 秩序ある土地利用を進めるため、行政だけでなく住民や事業者の責務の明確化を進めます。

図一水海道小地域の将来像



【凡例】							
	都市生活拠点		将来市街地(サービス・流通)		自然的土地利用ゾーン		市道
	地域生活拠点		土地区画整理事業施行区域		構想道路		国道
	交流拠点		集落ゾーン		県道		
	住居系市街地		営農ゾーン(農用区域)				